高等部道徳科学習指導案 『将棋大会』

**１　主題名**　友情を深める　Ｂ-(８）　友情　信頼

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・友情を深める。

・友情を深め、信頼関係を築く。日常の友人関係を多面的・多角的に捉えることができる。

・信頼できる人間関係を築くなど実践的な態度の育成を図ることができる。

（2）教材　　将棋大会　（P42-45）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| Ｂ　主として人との関わりに関すること　　（８）　友情　信頼友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。友情や信頼について、改めて、学び、考えることで、現時点での自身を取り巻く人間関係を多面的・多角的に捉え、友情や信頼を更に深めていくことにつながる。

また、今後の互いにより良い人間関係の構築に向けての道徳的な実践的な意欲や態度を培い、良好な友情や信頼を構築できる力を育てていく。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを言葉で表すことができる生徒を対象としている。学級活動や全校行事等を通して、クラスメイトと協力し合い活動を行うことを意図的に指導してきた。知的障害を有している実態を踏まえると、愛情や友情といった言葉を理解するために、実際の活動を通して考えていくことが効果的である。

具体的な話題や経験、教科横断的な指導を通して、学習していくことがより学習効果を高めていくことが期待できる。

今後も、他の教科や学校行事等を通して、実践的な態度を養い、本学習で学んだことを生かしていけるように指導を積み重ねていく。

（３）教材について【教材観】

将棋大会を通して、友情を確かめ合う話が紹介されている。将棋大会には敗戦してしまうが、将棋大会に向けての練習を振り返り、会話を通して互いに支え合っていたことに気づかされ、友情を基に更に強くなれるよう前向きに一緒に練習を行っていく物語である。

この話を読んでから、登場する２名の心境をそれぞれの立場から考えることで、本当の友情を考えていける教材になっている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画 １時間（本時）

（2）準備　　　場面絵、補助プリント、タブレット端末

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点☆評価の観点 |
| 導入 |  | ・「友情」と聞いて浮かぶ出来事はあるか考える。・経験から「友情」はどういった感情か振り返る。 | ・一緒に遊んでいる。・趣味が同じ。・話が合う。・助け合った。・ポジティブな気持ち。・一番大切。・辛い時もあるが基本は前向きな気持ち。 | ・これまでの経験を振り返る。・どんな時に友情を感じたか発表する。・発言がでてこない場合は、「学校では？」等、キーワードを提示する。・経験を「友情」のキーワードを中心に考える。・否定的な言葉がでてきても受け止める。☆「友情」について振り返り、自分の言葉で表現できる。（思・判・表）（態度）・生徒の発言を板書やタブレット端末等に残しておく。 |
| 展開 |  | 2　教材　　将棋大会を読む。課題　悟さん、啓太さんのどちらが、友だち思いか考える。・本文P４４に書き込む。〇悟さん、啓太さんのどちらを選んだか、理由も含め、一人一人発表をする。ここでは発表のみにとどめる。・悟さん、啓太さん役を演じ、会話の文章をもう一度読む。・本文P４４に記載する。〇もっと仲良くなれた理由を、一人一人発表をする。・どちらかが友情があるかではなく、お互いに信頼し合っていることから友情につながっていることを確認する。課題　写真を見てどのような友情があるか考える。・本文P４５に記載をする。・本文P４５上部の写真についてグループで考える。・本文P４５下部の写真についてグループで考える。・今一度、「友情」と聞いて浮かぶ出来事はあるか振り返るように伝える。 | 悟さん・自分は試合出られないのに啓太さんの練習に付き合ったから。・啓太さんが負けたのは自分が弱いからと伝えたから。啓太さん・感謝の言葉を述べているから。課題　悟さんと啓太さんはどうしてもっと仲良くなれたか考える。・お互い励まし合っているから。・負けたことを責めていないから。・「一緒に頑張ろう」と話し合ったから。・教えるね。・一緒に頑張ろう。・一緒に勉強しよう。・疲れたね。・一緒に頑張ろう。・もうすぐゴールだね。 | ・生徒が記載しやすいように個別の学習プリントを用意する。・自分はどちらを選んだのか、素直な気持ちを表現するように伝える。・生徒の意見は全て板書やタブレット端末等に残しておく。・悟さん、啓太さんどちらかに意見が偏った場合は教員がもう一方の意見を述べる。☆自分の考えを書き、発表できたか。（知・技）☆様々な意見や捉え方があることを理解することがわかる。（知・技）・悟さん、啓太さんの気持ちを考えながら会話文だけ読むよう伝える。・生徒が記載しやすいように個別の学習プリントを用意する。☆自分の考えを書き、発表できたか。（知・技）☆様々な意見や捉え方があることを理解することがわかる。（知・技）・生徒が記載しやすいように個別の学習プリントを用意する。・画面等に写真を映しておく。・グループで話し合うことで、生徒間の理解につなげる。☆自分の考えグループ内で発表できたか。（思・判・表）☆様々な意見や捉え方があることを理解することがわかる。（知・技）・生徒の意見から、ポジティブな言葉かけや、互いの信頼関係が大切であるという視点を改めて伝える。 |
| 終末 |  | ・自分の意見を発表することができたことを肯定的に評価する。・友情について深く考えることができ、お互いを大切にすることで友情が深まることを再確認する。 | ・友達をもっと大切にしたい。・友達と支え合いたい。 | ☆本時の学習を主体的に振り返ることができたか。（態度） |

（4）終末での教師の説話例

実際に友情を感じた教師自身の体験を話す。

友情を深めるためには、互いを信頼し合う視点が必要であることを伝える。

本文にもあるように互いに肯定的な言葉をかけあうことで、お互い前向きに生活することができるということを改めて確認をする。

今のクラスメイトや人間関係を大切にしていくことを改めて伝える。